一般演題（口演）

■日時：11 月 20 日（金） 12:50 ～ 13:40
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

ビギナーズ 口演 1（基礎・B）

座長 立川（川名）愛
（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所エイズ研究センター）

山本浩之
（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所エイズ研究センター）

BO-1-1 HIV-1 の新規 cis-acting element 網羅的同定に向けたデータ駆動型解析パイプラインの構築と機能検証

稲元佑真[1)]、土肥直哉[2)]、れ ばお[2)]、とらん かん[2)]、ちゅ せん[2)]、加地泉稀[1)]、足立昭夫[2)]、駒 貴明[2)]、渡邊謙吾[3)]、野間口雅子[2)]

1）徳島大学理工学部理工学科
2）徳島大学大学院医歯薬学研究部微生物病原学分野
3）徳島大学大学院医歯薬学研究部メディカル AI データサイエンス分野

BO-1-2 多様な HIV-1 系統における Lenacapavir 耐性関連カプシド変異体の表現型解析

福嶋優莉[1,2)]、大出裕高[3)]、門出和精[4)]、岩谷靖雅[5)]、齊藤 暁[1,2,6,7)]

1）宮崎大学フロンティア科学総合研究センター ウイルス感染制御学ラボ
2）宮崎大学農学部獣医学科
3）独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター
4）熊本大学大学院生命科学研究部
5）浜松医科大学医学部医学科
6）宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター
7）宮崎大学医学獣医学総合研究科

BO-1-3 ミトコンドリア障害による HIV 潜伏感染再活性化の誘導

池田正俊[1)]、野村亮介[1)]、Caroline Jelagat[1)]、清水知成[1)]、鈴木光太郎[1)]、青木一成[2)]、小西義延[1)]、岡本裕介[1)]、松井宏行[1)]、松本忠彦[1)]、遊佐宏介[2)]、高折晃史[1)]、白川康太郎[1)]

1）京都大学大学院医学研究科 血液内科学
2）京都大学医生物学研究所 幹細胞遺伝学

BO-1-4 RNAscope・Imaging Mass Cytometry 同一切片連続染色による HIV 感染組織内免疫微小環境の空間統合解析技術の構築

鈴木光太郎[1)]、小西義延[1)]、池田正俊[1)]、清水知成[1)]、片岡阿沙美[1)]、石山賢一[1)]、伊藤寛朗[2)]、平田勝啓[2)]、羽賀博典[2)]、岡本裕介[1)]、松本忠彦[1)]、松井宏行[1)]、白川康太郎[1)]、高折晃史[1)]

1）京都大学医学部附属病院 血液内科
2）京都大学医学部附属病院 病理診断科

BO-1-5 Novel LRA Derivatives Exhibit Dual Shock-and-Kill Activity with Selective Cytotoxicity Toward HIV Reservoir Cells: A Preliminary Mechanistic Study

Ebenezer Adjei-Gati[1,2)]、Sukegawa Sayaka[3,4)]、Tsuji Kohei[5)]、Peter Bolah[5)]、Takeuchi Hiroaki[1,4,6)]

1）Department of High-risk Infectious Disease Control, Institute of Science Tokyo
2）Department of Immunology, Noguchi Memorial Institute for Medical Research, University of Ghana
3）Department of Molecular Virology, Institute of Science Tokyo
4）Center for Infectious Disease Education and Analysis (TCIDEA)
5）Department of Medicinal Chemistry, Institute of Science Tokyo
6）Science Tokyo Hospital

■日時：11 月 20 日（金） 13:40 ～ 14:30
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

ビギナーズ 口演 2（臨床・C/ 社会・S）

座長 羽柴知恵子
（国立病院機構 名古屋医療センター）

白野倫徳
（大阪市立総合医療センター）

BO-2-1 感染症病棟における HIV 療養支援の実践状況と課題―ドナベディアンモデルを用いた構造・過程の分析―

奥村千絵、綱 文香、人見尚子、上田小百合、黒岩志津、森田 諒、白野倫徳

大阪市立総合医療センター

BO-2-2　近年の HIV 母子感染例に関する検討

岡本　峻[1)]、湊　怜子[1)]、杉浦　敦[1)]、
山本皇之祐[2)]、山中彰一郎[2)]、竹田善則[2)]、
市田宏司[2)]、小林裕幸[2)]、中西美紗緒[2)]、
箕浦茂樹[2)]、高野政志[2)]、桃原祥人[2)]、田中瑞恵[2)]、
出口雅士[2)]、喜多恒和[2)]、吉野直人[2)]

1）武蔵野赤十字病院　産婦人科
2）HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究班

BO-2-3　神奈川県の保健所等で実施する HIV 即日検査における陽性率および陽性反応的中度

兼任千恵[1,2)]、佐野貴子[1)]、林　暁子[3)]、
中澤よう子[4,5)]、沢田貴志[6)]

1）神奈川県衛生研究所
2）神奈川県健康医療局保健医療部医療整備・人材課
3）神奈川県健康医療局保健医療部健康危機・感染症対策課
4）神奈川県健康医療局総務室
5）公益財団法人神奈川県予防医学協会
6）神奈川県勤労者医療生活協同組合港町診療所

BO-2-4　岡山県 HIV 歯科診療ネットワークの構築に向けた取り組み

本多浩三[1)]、和田秀穂[2)]、角南善章[1)]、
越宗紳二郎[1)]、弘末　勝[1)]、石戸善一郎[1)]、
南哲之介[1)]、西岡宏樹[1)]

1）（一社）岡山県歯科医師会
2）川崎医科大学附属病院エイズ治療センター

BO-2-5　レジストリ事業を用いた国内エムポックス症例の臨床疫学的特徴と臨床現場即時検査の評価

高橋あずさ[1)]、加藤博史[1)]、川畑拓也[2)]、
浜みなみ[2)]、阪野文哉[2)]、吉村幸浩[3)]、今橋真弓[4)]、
鄭　瑞雄[5)]、山岸拓也[1,6)]、島田智恵[1)]、砂川富正[1)]

1）国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　応用疫学研究センター
2）大阪健康安全基盤研究所　ウイルス課
3）横浜市民病院　感染症内科
4）名古屋医療センター　臨床研究センター感染・免疫研究部
5）都立駒込病院　感染症科
6）国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　薬剤耐性研究センター

■日時：11 月 21 日（土）　8:30 ～ 9:20
■会場：第 3 会場（岡山コンベンションセンター 2F レセプションホール）

ビギナーズ 口演 3（臨床・C/ 社会・S）

座長　仲村秀太
（琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座）
今橋真弓
（名古屋医療センター臨床研究センター感染・免疫研究部）

BO-3-1　People with HIV における HBV 感染後の HBs 抗体保有に関する因子の検討

森木朝子[1,2,3)]、遠藤知之[2,3,4)]、松川敏大[2,3)]、
荒　隆英[2,3)]、長谷川祐太[2,3)]、高橋知希[1,2,3)]、
相庭昌之[1,2,3)]、後藤秀樹[2,3)]、豊嶋崇徳[2,3)]

1）エイズ予防財団
2）北海道大学病院血液内科
3）北海道大学病院 HIV 診療支援センター
4）北海道大学病院感染制御部

BO-3-2　看護・介護・リハビリ職における HIV および HBV 陽性者へのスティグマ関連意識調査

長倉英里[1,2)]、田沼順子[2,3)]

1）国際医療福祉大学大学院医学研究科
2）グラクソ・スミスクライン株式会社
3）国際医療福祉大学医学部感染症学

BO-3-3　妊娠前に HIV 感染が判明し、その後に妊娠した女性の背景・妊娠転帰の検討

山本皇之祐[1,2)]、杉浦　敦[2)]、山中彰一郎[2)]、
湊　玲子[2)]、岡本　峻[2)]、竹田善紀[2)]、市田宏司[2)]、
小林裕幸[2)]、中西美紗緒[2)]、箕浦茂樹[2)]、
高野政志[2)]、田中瑞恵[2)]、出口雅士[2)]、喜多恒和[2)]、
吉野直人[2)]

1）奈良県立医科大学附属病院　産婦人科
2）HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究班

BO-3-4　東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性およびトランスジェンダーにおける PrEP 使用とフォローアップの実態ー 3 年間の対面調査から

李　秀訂[1,2)]、石田敏彦[3)]、藤浦裕二[3)]、
藤井良樹[5)]、高久道子[4)]、弘田翔也[2)]、鄭　志吾[2)]、
金子典代[2)]

1）金城学院大学看護学部看護学科
2）名古屋市立大学大学院看護学研究科
3）ANGEL LIFE NAGOYA
4）岐阜保健大学看護学部看護学科
5）名古屋大学大学院博士研究員

BO-3-5 Mental Health Services and Interventions for Sexual and Gender Minorities in Asia, 2023-2025: A Scoping Review

Thi Phuong Lam Nguyen[1)]、田沼順子[1,2)]

1）国際医療福祉大学大学院医学研究科
2）国際医療福祉大学医学部

■日時：11 月 21 日（土） 9:20 ～ 10:10

■会場：第 3 会場（岡山コンベンションセンター 2F レセプションホール）

ビギナーズ 口演 4（臨床・C）

座長　藤井輝久
（広島大学病院　輸血部長／エイズ医療対策室長）

福田寛文
（川崎医科大学血液内科学 / 川崎医科大学附属病院エイズ治療センター）

BO-4-1 ニューモシスチス肺炎治療中 ST 合剤中止後に急速顕在化したNocardia elegansによる肺感染症の新規診断 HIV 例

酒井　結[1)]、中本貴人[1)]、桑田　亮[1)]、川島　亮[1)]、井上恵理[1)]、青木孝弘[1)]、照屋勝治[1)]、黒川正美[2)]、星野泰隆[3)]、潟永博之[1)]

1）国立危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター
2）国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　中央検査部門
3）国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　真菌部

BO-4-2 HIV 関連ニューモシスチス肺炎におけるデジタル PCR を用いた血清 Pneumocystis jirovecii DNA 動態と PCP-IRIS との関連

池宮城七重、井手口周平、西山直哉、山入端一貴、山城朋子、宇治宮蕗、新垣若子、上　若生、仲村秀太、古堅　誠、宮城一也、山本和子

琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座

BO-4-3 都立駒込病院における HIV 感染症新規診断例でのインターフェロン γ 遊離試験の実施状況と有用性の検討

佐野宙輝[1,2)]、福島一彰[1,2)]、鵜飼康平[1,2)]、滝澤あゆみ[2,3)]、相澤陽太[1)]、鄭　瑞雄[1)]、田中　勝[1)]、小林泰一郎[1)]、関谷綾子[1)]、矢嶋敬史郎[1)]、味澤　篤[1)]、今村顕史[1)]

1）東京都立駒込病院　感染症科
2）東京都立駒込病院　感染制御科
3）東京都立駒込病院　総合診療・救急科

BO-4-4 HIV 合併非小細胞肺癌のケースシリーズ検討

加藤千博[1)]、大崎俊樹[1)]、金子　峻[1)]、原田侑子[1)]、宮下竜伊[1)]、一木昭人[1)]、近澤悠志[1)]、備後真登[1)]、村松　崇[1)]、四本美保子[1)]、河野雄太[2)]、天野景裕[1)]、木内　英[1)]

1）東京医科大学病院　臨床検査医学科
2）東京医科大学病院　呼吸器内科

BO-4-5 レナカパビルが著効した多剤耐性 HIV 感染症を伴う薬害 AIDS・先天性血友病 A の 1 例

田中秀一[1)]、福田寛文[1)]、和田秀穂[2)]

1）川崎医科大学付属病院　血液内科
2）川崎医科大学 総合臨床医学

■日時：11 月 20 日（金） 8:30 ～ 9:20

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 1（基礎・B）
潜伏感染・リザーバー

座長　佐藤賢文
（北海道大学大学院医学研究院病原微生物学教室）

本園千尋
（熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター）

O01-1 腸内細菌由来細胞外小胞を介した慢性炎症と HIV リザーバー維持機構の解析

石坂　彩[1,2)]、古賀道子[2,3)]、四柳　宏[2,4)]、山本浩之[1)]、水谷壮利[1)]

1）国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 エイズ研究センター
2）東京大学 医科学研究所附属病院 感染免疫内科
3）東京大学 国際高等研究所 新世代感染症センター
4）国立健康危機管理研究機構

O01-2 HIV リザーバー活動性を可視化する HIV 転写活性解析プラットフォームの構築

鈴木一雄[1)]、ればーと あんげりか[1)]、ゆー えま[1)]、大出裕高[2)]、岩谷靖雅[3)]、ぶりゅー ぶるーす[4)]

1）セント　ヴィンセント　ホスピタル　アプライド　メディカル　リサーチセンター、シドニー
2）名古屋医療センター、臨床研究センター
3）浜松医科大、微生物学　免疫学講座
4）Departments of Neurology and Immunology, St Vincent's Hospital, Sydney

O01-3　新規 LRA 候補化合物 2-HSB が示す “Shock-and-Kill”活性に基づく HIV 潜伏感染細胞排除機序の解析

原雄一郎[1,2]、北村春樹[3]、松田幸樹[4]、藤崎知園子[5]、助川明香[6,7]、谷本幸介[2]、前田賢次[4]、武内寛明[2,7]

1）東京科学大学　医歯学総合研究科　生体集中管理学分野
2）東京科学大学　医歯学総合研究科　ハイリスク感染症研究マネジメント学分野
3）米国国立衛生研究所（NIH）
4）鹿児島大学　レトロウイルス学共同研究センター
5）鹿児島大学　血管代謝病態解析学
6）東京科学大学　医歯学総合研究科　ウイルス制御学分野
7）東京科学大学　感染症センター（TCIDEA）

O01-4　慢性 SIV 感染カニクイザルにおける Tat mRNA ワクチンおよび TLR9 アゴニスト併用療法によるリバウンド制御

野木森拓人[1]、北村紳悟[2]、高濱正吉[1]、北畑　舜[2]、黒田典一[2]、釘宮　啓[2]、本多　拡[2]、野村大貴[2]、中野祥行[2]、吉永智一[2]、山本拓也[1,3,4]

1）医薬基盤・健康・栄養研究所　難病・免疫ゲノム研究センター　プレシジョン免疫プロジェクト
2）塩野義製薬株式会社
3）大阪大学大学院薬学研究科　免疫老化制御学分野
4）大阪大学大学院医学系研究科　免疫・感染制御学分野

■日時：11 月 20 日（金）　8:30 ～ 9:20
■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 2（臨床・C）
抗 HIV 療法（臨床試験 1）

座長　鈴木麻衣
（順天堂大学医学部総合診療科学講座）
渡邊　大
（独立行政法人国立病院機構　大阪医療センター）

O02-1　第 III 相 ARTISTRY-1 試験における複雑レジメンから bictegravir/lenacapavir (BIC/LEN) 配合錠への切替における有効性及び安全性

Chloe Orkin[1]、Peter J. Ruan[2]、Malcolm Hedgcock[3]、Cyril Gaultier[4]、Marcelo H. Losso[5]、Mark Bloch[6]、Karam Mounzer[7]、Hung-Chin Tsai[8]、Kwanza Price[9]、Keith Aizen[9]、Martin Rhee[9]、Xu Zhang[9]、Jairo M. Montezuma-Rusca[9]、Peter Sklar[9]、今橋真弓[10]、Pedro Cahn[11]

1）SHARE Collaborative, Blizard Institute, Queen Mary University of London, London, UK
2）Ruane Clinical Research Group, Los Angeles, CA, USA
3）Spectrum Health, Vancouver, BC, Canada
4）BIOS Clinical Research, Palm Springs, CA, USA
5）Emerging Diseases Research Unit, Hospital General de Agudos Jose Maria Ramos Mejia, Buenos Aires, Argentina
6）Holdsworth House Medical Practice, Darlinghurst, NSW, Australia
7）Philadelphia FIGHT Community Health Centers, Philadelphia, PA, USA
8）Kaohsiung Veterans General Hospital, Kaohsiung City, Taiwan
9）Gilead Sciences, Inc., Foster City, CA, USA
10）国立病院機構 名古屋医療センター , 名古屋 , 日本
11）Fundacion Huesped, Buenos Aires, Argentina

O02-2 65 歳以上の HIV 陽性者における bictegravir/lenacapavir (BIC/LEN) 配合シングルタブレットレジメン（STR）の有効性および安全性：第 III 相 ARTISTRY-1 試験 48 週解析

Mark Bloch[1)]、Cyril Gaultier[2)]、Benoit Trottier[3)]、Jorge Santana[4)]、Simiso Mandisa Sokhela[5)]、Po-Liang Lu[6)]、Xu Zhang[7)]、Jairo M Montezuma-Rusca[7)]、Peter Sklar[7)]、渡邊　大[8)]、Pedro Cahn[9)]

1) 1.Holdsworth House Medical Practice and Kirby Institute, University of New South Wales, Sydney, NSW, Australia
2) BIOS Clinical Research, Palm Springs, CA, USA
3) Clinique de Medecine Urbaine du Quartier Latin, Montreal, QC, Canada
4) University of Puerto Rico, San Juan, Puerto Rico
5) Ezintsha, University of Witwatersrand, Johannesburg, South Africa
6) Kaohsiung Medical University Chung-Ho Memorial Hospital, Kaohsiung, Taiwan
7) Gilead Sciences, Inc., Foster City, CA, USA
8) 国立病院機構 大阪医療センター , 大阪 , 日本
9) Fundacion Huesped, Buenos Aires, Argentina

O02-3 第 III 相 ARTISTRY-2 試験における bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) から bictegravir/lenacapavir (BIC/LEN) 配合 STR への切替の有効性および安全性

Eric G Meissner[1)]、Moti Ramgopal[2)]、Peter J Ruane[3)]、William Sanchez[4)]、Jean-Pierre Routy[5)]、Mark O'Reilly[6)]、Sergio Lupo[7)]、Sven Schellberg[8)]、Keith Aizen[9)]、Hailin Huang[9)]、Kwad Mponponsuo[9)]、Peter Sklar[9)]、Martin Rhee[9)]、井上恵理[10)]、Chien-Ching Hung[11)]

1) Medical University of South Carolina, Charleston, SC, USA
2) Midway Immunology and Research Center, Fort Pierce, FL, USA
3) Ruane Clinical Research Group, Los Angeles, CA, USA
4) Floridian Clinical Research, Miami Lakes, FL, USA
5) McGill University Health Centre, Montreal, QC, Canada
6) Taylor Square Private Clinic, Sydney, NSW, Australia
7) CAICI, Rosario, Argentina
8) Novopraxis Berlin GbR, Berlin, Germany
9) Gilead Sciences, Inc., Foster City, CA, USA
10) エイズ治療・開発研究センター 国立国際医療センター , 東京 , 日本
11) National Taiwan University Hospital Yunlin Branch, Yunlin, Taiwan

O02-4 第 III 相 ARTISTRY-2 試験における年齢、性別、人種および地域別サブグループにおける bictegravir/lenacapavir (BIC/LEN) 配合 STR と B/F/TAF の有効性および安全性比較

Pedro Cahn[1)]、PeterRuane[2)]、Sergio Lupo[3)]、Moti Ramgopal[4)]、Claudia Martorell[5)]、Mark O'Reilly[6)]、Jean-Pierre Routy[7)]、William Sanchez[8)]、Jezer I. Lezama-Mora[9)]、横幕能行[10)]、Sven Schellberg[11)]、Keith Aizen[12)]、Hailin Huang[12)]、Kwad Mponponsuo[12)]、Jairo M Montezuma-Rusca[12)]、Peter Sklar[12)]、今橋真弓[10)]、Eric Meissner[13)]

1) Fundacion Huesped, Buenos Aires, Argentina
2) Ruane Clinical Research Group, Los Angeles, CA, USA
3) CAICI, Rosario, Argentina
4) Midway Immunology and Research Center, Fort Pierce, FL, USA
5) The Research Institute, Springfield, MA, USA
6) Taylor Square Private Clinic, Sydney, New South Wales, Australia
7) McGill University Health Centre, Montreal, Quebec, Canada
8) Floridian Clinical Research, Miami Lakes, FL, USA
9) ProcliniQ Investigacion Clinica, Mexico City, Mexico
10) 国立病院機構 名古屋医療センター , 名古屋 , 日本
11) Novopraxis Berlin GbR, Berlin, Germany
12) Gilead Sciences, Inc., Foster City, CA, USA
13) Medical University of South Carolina, Charleston, SC, USA

O02-5 複雑なレジメン又は B/F/TAF から BIC/LEN へ切り替えた際の有効性および安全性：ARTISTRY-1, -2 試験日本人集団事後解析

渡邊　大[1)]、横幕能行[2)]、Chloe Orkin[3)]、Eric Meissner[4)]、Peter Sklar[5)]、Mauricio Montezuma[5)]、Ying Guo[5)]、近藤　陽[6)]、神谷　誠[6)]、白阪琢磨[1)]、潟永博之[7)]

1) 独立行政法人国立病院機構　大阪医療センター
2) 独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター
3) SHARE Collaborative, Blizard Institute, Faculty of Medicine and Dentistry, Queen Mary University of London
4) Medical University of South Carolina
5) Gilead Sciences Inc.
6) ギリアド・サイエンシズ株式会社
7) 国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

■日時：11 月 20 日（金） 9:20 ～ 10:20
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

口演 3（基礎・B）
免疫・ワクチン

座長 本園千尋
（熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター）
野村拓志
（熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター）

O03-1 高度免疫不全 HIV 患者における長期持続感染 SARS-CoV-2 の中和活性についての検討

戸山 凪[1,2)]、土屋亮人[1)]、川島 亮[1,3)]、黒木絢士郎[4)]、長島真美[5)]、貞升健志[4)]、吉村和久[4)]、潟永博之[1,3)]

1) 国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター
2) 公益財団法人エイズ予防財団
3) 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター
4) 前 東京都健康安全研究センター
5) 東京都健康安全センター

O03-2 SIVmac239 特異的中和抗体誘導における Env 可変・保存領域残基の選択圧解析

星野南月[1,4)]、西澤雅子[1)]、芳田 剛[1)]、関紗由里[1)]、林 隆也[1)]、菅野芳明[7)]、山本浩之[1,2,3,4,5,6)]

1) JIHS 国立感染症研究所エイズ研究センター
2) 東京科学大学 NIID 統合微生物学
3) 熊本大学人レトロウイルス学共同研究センター
4) 横浜市立大学医学研究科
5) University Hospital Basel
6) Thai Nguyen University of Sciences
7) 東京大学医科学研究所

O03-3 HIV-1 CRF01_AE Envelope features in neutralizers from a Vietnamese cohort

Hong Quynh Anh Pham[1,2)]、雅子西澤[1)]、原田 恵嘉[1)]、松岡佐織[1)]、俣野哲朗[1,3)]、Thi Lan Anh Nguyen[5)]、Thi Thu Trang Hau[1)]、山本浩之[1,2,3,4,6)]

1) 国立健康危機管理研究機構 , 国立感染症研究所 エイズ研究センター
2) Joint Research Center for Human, Retrovirus Infection, Kumamoto University, Kumamoto, Japan
3) Institute of Science Tokyo, Tokyo, Japan
4) Department of Biomedicine, University Hospital Basel, Basel, Switzerland
5) National Institute of Hygiene and Epidemiology, Hanoi, Vietnam
6) Department of Biotechnology, Thai Nguyen University of Sciences, Thai Nguyen, Vietnam

O03-4 VSV ベクターワクチンによるカプシド特異的 CD8 陽性 T 細胞反応の選択的誘導

石井 洋[1)]、中村 碧[1)]、岡崎みどり[1)]、阪脇廣美[2)]、三浦智行[1,2)]、山本浩之[1,3)]、俣野哲朗[1,3,4)]

1) 国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所
2) 京都大学医生物学研究所
3) 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター
4) 東京大学医科学研究所

O03-5 HIV-1 サブタイプ AE ウイルスの増殖抑制に関与する HIV- 特異的 T 細胞

久世 望[1,2)]、Yu Zhang[2,3)]、Hung Nguyen The[2)]、Giang Tran Van[4)]、岡 慎一[3)]、滝口雅文[2,5)]

1) 国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所潜在感染研究部
2) 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター
3) 国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療研究開発センター
4) National Hospital of Tropical Diseases, Hanoi, Vietnam
5) 国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所エイズ研究センター

O03-6 cART 下における HIV リザーバーと免疫学的指標の関連解析

立川（川名）愛[1,2,3)]、鮎川洋子[1)]、古賀道子[4,5)]、菅野芳明[5)]、安達英輔[5)]、四柳 宏[5,6)]、鈴木一雄[7)]、石田尚臣[8)]、山本浩之[1,2)]

1) 国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所エイズ研究センター
2) 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター
3) 東京大学医科学研究所附属病院エイズワクチン開発担当
4) 東京大学新世代感染症センター感染症研究分野
5) 東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科
6) 国立健康危機管理研究機構
7) St. Vincent's Hospital, Sydney
8) デンカ株式会社

■日時：11 月 20 日（金） 14:50 ～ 15:40
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

口演 4（社会・S）
検査・相談体制

座長 長島真美
（東京都健康安全研究センター）

座長 草川 茂
（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所）

O04-1 地方自治体におけるエイズ施策の横断的モニタリングと施策推進の取り組みについて

平賀紀行[1,2]、四本美保子[3]、南 留美[4]、今村淳治[5]、荒川創一[6]、岩橋恒太[7]、西浦 博[8]、小林鉄郎[8]、白阪琢磨[9]

1）野木病院 麻酔科・泌尿器科
2）九州大学大学院 医学研究院 泌尿器科学分野
3）東京医科大学 臨床検査医学分野
4）九州医療センター 免疫感染症内科
5）仙台医療センター 感染症内科
6）井口腎泌尿器科 亀有
7）特定非営利法人 akta
8）京都大学大学院 医学研究科 環境衛生医学分野
9）大阪医療センター HIV・AIDS 先端医療開発センター

O04-2 COVID-19 流行前後における保健所 HIV 検査実施率と HIV 感染症診断時 AIDS 発症率の関連

吉野友祐[1]、木村佳貴[1,2]、矢崎有希[1]、福本 敦[1,2]、若林義賢[3]、北沢貴利[3]

1）帝京大学医学部微生物学講座
2）帝京大学アジア国際感染症制御研究所
3）帝京大学医学部内科学講座

O04-3 HIV 郵送検査に関する実態調査（2025）

須藤弘二[1]、佐野貴子[2]、近藤真規子[1]、今井光信[3]、岩橋恒太[4]、加藤眞吾[1]、貞升健志[5]、四本美保子[6]

1）株式会社ハナ・メディテック
2）神奈川県衛生研究所 微生物部
3）田園調布学園大学
4）特定非営利活動法人 akta
5）関東学院大学 栄養学部
6）東京医科大学病院 臨床検査医学科

O04-4 在留外国人を対象とした多言語対応郵送 HIV・梅毒検査の社会実装に向けた研究

北島 勉[1]、沢田貴志[2]、宮首弘子[3]、Tran Thi Hue[4]、岡本博照[5]、仲村秀太[6]、Supriya Shakya[7]

1）杏林大学総合政策学部
2）港町診療所
3）杏林大学外国語学部
4）神戸女子大学文学部
5）杏林大学保健学部
6）琉球大学大学院医学系研究科
7）無所属

O04-5 在留外国人を対象としたオンライン結果確認および医療連携機能を備えた多言語対応 HIV 自己検査の実施可能性に関する研究

北島 勉[1]、沢田貴志[2]、宮首弘子[3]、Tran Thi Hue[4]、Supriya Shakya[5]、仲村秀太[6]

1）杏林大学総合政策学部
2）港町診療所
3）杏林大学外国語学部
4）神戸女子大学文学部
5）無所属
6）琉球大学大学院医学系研究科

■日時：11 月 20 日（金） 15:40 ～ 16:30
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

口演 5（臨床・C）
抗 HIV 療法（臨床試験 2・RWD）

座長 渡邊 大
（独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター）

安達英輔
（東京大学医科学研究所病院）

O05-1 治療経験 HIV 陽性者におけるウイルス血症下での bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) 切替後転帰 -BICSTaR 試験 24 か月成績 -

Berend Van Welzen[1)]、Sam McConkey[2)]、Marta Boffito[3)]、Alexander Wong[4)]、Giulia Marchetti[5)]、Alexy Inciarte[6)]、Daniel Elbirt[7)]、Christoph Stephan[8)]、Yesim Tasova[9)]、Tsai Hung-Chin[10)]、Yong Jun[11)]、Claudine Duvivier[12)]、Choy Chiaw Yee[13)]、David Thorpe[14)]、Andrea Marongiu[14)]、Tali Cassidy[14)]、照屋勝治[15)]

1) University Medical Centre Utrecht, Utrecht, The Netherlands
2) Beaumont Hospital, Dublin, Ireland
3) Chelsea and Westminster Hospital, London, UK
4) Regina General Hospital, Regina, SK, Canada
5) University of Milan, ASST Santi Paolo e Carlo, Milan, Italy
6) Hospital Clinic de Barcelona, Barcelona, Spain
7) Kaplan Medical Center, Rehovot, Israel
8) Universitatsklinikum Frankfurt, Frankfurt, Germany
9) Cukurova University Hospital, Adana, Turkiye
10) Kaohsiung Veterans General Hospital, Kaohsiung, Taiwan
11) Yonsei University Severance Hospital, Seoul, Republic of Korea
12) AP-HP, Hopital Necker-Enfants Malades, Necker-Pasteur Infectiology Center, Paris, France
13) National Centre for Infectious Diseases, Singapore, Singapore
14) Gilead Sciences Ltd, Uxbridge, UK
15) エイズ治療・開発研究センター 国立国際医療センター , 東京 , 日本

O05-2 HIV 未治療成人において、DTG/3TC 2 剤療法は BIC/FTC/TAF 3 剤療法に対して非劣性である（VOGUE 試験）－日本人サブグループ解析も含めて－

渡邊 大[1)]、Jade Ghosn[2,3)]、Federico Pulido[4)]、Gustavo D Lopardo[5)]、Anita Olczak[6)]、Diego Ripamonti[7)]、Charlotte Martin[8)]、Orlando Paredes Ceballos[9)]、Hartmut Stocker[10,11)]、Maria Josefina Mendez Vasquez[12)]、潟永博之[13)]、Simeon Metallidis[14)]、Daniel Elbirt[15)]

1) 国立病院機構大阪医療センター エイズ先端医療研究部・感染症内科
2) Universite Paris Cite INSERM, IAME, Paris, France
3) Service des Maladies Infectieuses, Assistance Publique - Hopitaux de Paris Nord, Hopital Bichat-Claude Bernard, Paris, France
4) Hospital Universitario 12 de Octubre, imas12, UCM, Madrid, Spain
5) Fundacion Centro de Estudios Infectologicos, Buenos Aires, Argentina
6) Nicolaus Copernicus University Ludwik Rydygier Collegium, Bydgoszcz, Poland
7) 7Infectious Diseases Unit, ASST Papa Giovanni XXIII, Bergamo, Italy
8) Centre Hospitalier Universitaire Saint-Pierre, Brussels, Belgium
9) Unidad de Atencion Medica e Investigacion en Salud, Merida, Yucatan, Mexico
10) epartment of Infectious Diseases, St Joseph Hospital, Berlin-Tempelhof, Berlin, Germany
11) EPIMED GmbH, Berlin, Germany
12) Porto University Hospital Centre, Lisboa, Portugal
13) 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
14) AHEPA Hospital, Aristotle University of Thessaloniki, Thessaloniki, Greece
15) Allergy, Immunology and HIV Unit, Kaplan Medical Center, Rehovot, Israel

O05-3 ドルテグラビル / ラミブジン（ドウベイト配合錠）投与における日本人 HIV 感染症患者に対する安全性及び有効性の解析：製造販売後調査 6 年間の最終報告

吉川洋一郎[1)]、長生多佳子[2)]、松川朋子[1)]、瀬端阿希美[1)]、福田明子[3)]、村山弘樹[2)]、王 棟[2)]

1) ヴィーブヘルスケア株式会社 安全性管理部
2) ヴィーブヘルスケア株式会社 メディカル・アフェアーズ部門
3) ヴィーブヘルスケア株式会社

O05-4 DORAVIRINE/ISLATRAVIR (100/0.25 mg) VS. BIC/FTC/TAF FOR INITIAL HIV-1 THERAPY: Week 48 Results From Phase 3 Study in Japanese Adults Living With HIV-1

潟永博之[1)]、横幕能行[2)]、白阪琢磨[3)]、木内　英[4)]、Jurgen K. Rockstroh[5)]、高瀬明子[6)]、山田桃香[6)]、Stephanie O. Klopfer[7)]、Yayun Xu[7)]、Tracy L. Diamond[7)]、Mary Vesnesky[7)]、Luisa M. Stamm[7)]、Mary L. Pisculli[7)]、Michelle C. Fox[7)]、初澤由香理[6)]

1) 国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター
2) 独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター
3) 独立行政法人国立病院 機構　大阪医療センター
4) 東京医科大学病院
5) Department of Medicine I, University Hospital Bonn
6) MSD KK
7) Merck & Co., Inc.

O05-5 抗レトロウイルス療法切り替えにおける患者報告アウトカム：HIV 陽性者のリアルワールド経験からの知見

仲村秀太[1)]、岩橋恒太[2)]、Nneka Nwokolo[3)]、Brent Allan[4)]、Garry Brough[5)]、Mario Cascio[6)]、Erika Castellanos[7)]、Antonella Cingolani[8)]、Vuyiseka Dubula[9)]、W. David Hardy[10)]、Sindy Mbundwini[11)]、Marta McBritton[12)]、Mary Ndung'u[13)]、Bruce Richman[14)]、Mercy Shibemba[15)]、Ama Appiah[3)]、Mariel Mayer[3)]、Shaun Mellors[3)]、Rickesh Patel[3)]

1) 琉球大学大学院医学研究科　感染症・呼吸器・消化器内科学講座（第一内科）
2) 特定非営利活動法人 akta
3) ViiV Healthcare, London, UK
4) The National Association of People with HIV Australia, Newtown, Australia
5) Transformation Partners in Health and Care, London, UK
6) European AIDS Treatment Group (EATG), Brussels, Belgium
7) Global Action for Trans Equality (GATE), Mijdrecht, Netherlands
8) Fondazione Policlinico Universitario Agostino Gemelli IRCCS, Catholic University of the Sacred Heart, Rome, Italy
9) The Global Fund, Geneva, Switzerland
10) USC Rand Schrader HIV Clinic, Keck School of Medicine of USC, Los Angeles, CA, USA
11) Nelson Mandela University, Port Elizabeth, South Africa
12) Barong, Sao Paulo, Brazil
13) Women's Health in Women's Hands Community Centre, Toronto, Canada
14) Prevention Access Campaign, New York, NY, USA
15) Independent Consultant, Manchester, UK

■日時：11 月 21 日（土）　8:30 ～ 9:20

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 6（社会・S）
薬害

座長　柿沼章子
（(社福）はばたき福祉事業団）

澤田暁宏
（兵庫医科大学病院　呼吸器・血液内科）

O06-1 HIV 感染血友病患者の齲蝕治療歴と口腔衛生指導の課題と検討

宮本里香[1)]、高鍋雄亮[2)]、丸岡　豊[2)]

1) 国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター
2) 国立健康危機管理研究機構　国際医療センター歯科口腔外科

O06-2 薬害 HIV 感染被害者の長期療養における心理士の役割

緒方　釈[1)]、高木雅敏[2)]、田上直美[3)]、高林　学[3)]、中村朋文[4)]、中田浩智[1,4)]、安永純一朗[1,4,5)]、松下修三[6)]

1) 熊本大学病院感染免疫診療部
2) 熊本大学病院看護部
3) 熊本大学病院薬剤部
4) 熊本大学病院血液・膠原病・感染症内科
5) 熊本大学大学院生命科学研究部
6) 熊本大学ヒトレトロウィルス学共同センター

O06-3 薬害 HIV 感染血友病患者における身体・生活機能の実態 ―全国多施設リハビリ検診 2025 年度報告―

西原将太[1)]、宮本高明[1)]、木下雄介[1)]、岡田貴裕[1)]、松崎春希[1)]、山本克彦[1)]、大金美和[2)]、柿沼章子[3)]、藤谷順子[1)]

1) 国立研究危機管理研究機構 国立国際医療センター リハビリテーション科
2) 国立研究危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
3) 社会福祉法人 はばたき福祉事業団

O06-4 薬害HIV感染被害者の障害年金請求支援における課題～抗HIV薬と透析の因果関係が見落とされた一事例から得られた教訓～

岩野友里[1)]、久地井寿哉[2)]、柿沼章子[1)]

1) 社会福祉法人はばたき福祉事業団
2) 社会福祉法人はばたき福祉事業団 (エイズ予防財団リサーチレジデント)

O06-5　薬害 HIV 感染被害者の安心安全な長期療養のソーシャルサポート構築～緊急時や入院時等の保証人の確保した一事例～

柿沼章子 [1)]、久地井寿哉 [2)]、岩野友里 [1)]

1）社会福祉法人はばたき福祉事業団
2）社会福祉法人はばたき福祉事業団 (エイズ予防財団リサーチレジデント)

■日時：11 月 21 日（土） 8:30 ～ 9:50

■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 7（臨床・C）
PrEP と HBV

座長　谷口俊文
（千葉大学医学部附属病院　感染制御部・感染症内）
村松　崇
（東京医科大学 臨床検査医学科）

O07-1　PrEP 診療を契機とした B 型肝炎 combination prevention の実装

石内崇勝 [1,2)]、川邊卓馬 [1)]、岡田礼奈 [1)]、三上　蓮 [1)]、吉田菜乃 [1)]、坂元奈桜 [1)]、清水健伍 [1)]、吉田昂汰 [1,2)]

1）一般社団法人天照会　いだてんクリニック
2）熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター

O07-2　PrEP 時代の東京における MSM の急性 HBV 感染のリスクと予後

水島大輔、新谷由衣、高野　操、安藤尚克、青木孝弘、上村　悠、岡　慎一、潟永博之

国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

O07-3　HIV PrEP 時代における東京の MSM の HBV 疫学

新谷由衣、水島大輔、高野　操、上村　悠、安藤尚克、青木孝弘、潟永博之

国際医療センターエイズ治療研究開発センター

O07-4　ハイリスク集団における BBV(HIV、HBV、HCV) 感染の実態調査

上村　悠 [1)]、水島大輔 [1,4)]、塩尻大輔 [2)]、石内崇勝 [3,4)]、池袋　真 [2,4)]、坂元奈桜 [3,5)]、清水健伍 [3,5)]、吉田昂汰 [3,4)]、金城里奈 [1)]、新谷由衣 [1)]、桑田　亮 [1)]、川島　亮 [1,4)]、井上恵理 [1)]、安藤尚克 [1)]、中本貴人 [1)]、青木孝弘 [1)]、照屋勝治 [1)]、潟永博之 [1,4)]

1）日本健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター
2）パーソナルヘルスクリニック
3）一般社団法人天照会　いだてんクリニック
4）熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター
5）滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻

O07-5　トランスジェンダー男性における膣内細菌叢と局所炎症所見の検討 —HIV 予防支援への示唆—

河瀬里美、池袋　真、久我伊万里、佐藤郁実、塩尻大輔

医療法人社団マキマ会　パーソナルヘルスクリニック

O07-6　Once-weekly oral islatravir/lenacapavir (ISL/LEN) vs daily BIC/FTC/TAF in virologically suppressed adults with HIV-1: Week 48 results of ISLEND-1 Phase 3 trial

木内　英 [1)]、Jurgen K. Rockstroh[2)]、Moti N. Ramgopal[3)]、Adrian C. Fabregas[4)]、Malcolm Hedgcock[5)]、Kimberly A. Workowski[6)]、Sylvie Ronot-Bregigeon[7)]、Isabel Cassetti[8)]、Cynthia Brinson[9)]、Samir K. Gupta[10)]、Chien-Ching Hung[11)]、Mark O'Reilly[12)]、Jihad Slim[13)]、潟永博之 [14)]、Peter Shalit[15)]、Stephanie O. Klopfer[16)]、Shan-Yu Liu[17)]、Nidhi Patel[16)]、Fadi Shihadeh[17)]、Renee-Claude Mercier[17)]、Melissa Shaughnessy[16)]、Hadas Dvory-Sobol[17)]、Devi SenGupta[17)]、Cyril Llamoso[16)]、Martin S. Rhee[17)]、Chloe Orkin[18)]

1）東京医科大学病院
2）Department of Medicine I, University Hospital Bonn
3）Midway Immunology and Research Center, Fort Pierce
4）Department of Infectious Diseases, Vall d'Hebron University Hospital
5）Spectrum Health
6）Department of Medicine, Emory University, Atlanta
7）APHM, Hopital Sainte-Marguerite, Aix-Marseille Université
8）Helios Salud
9）Central Texas Clinical Research
10）Indiana University School of Medicine
11）Department of Internal Medicine, National Taiwan University Hospital Yunlin Branch
12）East Sydney Doctors; Taylor Square Private Clinic
13）New York Medical College
14）国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター
15）Tribalmed LLC
16）Merck & Co., Inc.
17）Gilead Sciences, Inc.
18）SHARE Collaborative, Blizard Institute, Faculty of Medicine and Dentistry, Queen Mary University of London

O07-7 Once-weekly oral islatravir/lenacapavir (ISL/LEN) vs standard-of-care in virologically suppressed adults with HIV-1: Week 48 results of ISLEND-2 Phase 3 trial

渡邊　大[1)]、Amy E. Colson[2)]、Princy N. Kumar[3)]、Peter J. Ruane[4)]、Ploenchan Chetchotisakd[5)]、Winai Ratanasuwan[6)]、Afaaf Liberty[7)]、Ronald G. Nahass[8)]、Alejandro Arenas-Pinto[9)]、Frank A. Post[10)]、David A. Baker[11)]、Pedro Cahn[12)]、Eveline Hofmann[13)]、Po-Liang Lu[14)]、Anna H.E. Roukens[15)]、Miłosz Parczewski[16)]、Hongyuan Wang[17)]、Ke Chen[18)]、Fadi Shihadeh[17)]、Melissa Shaughnessy[18)]、Hadas Dvory-Sobol[17)]、Devi SenGupta[17)]、Cyril Llamoso[18)]、Martin S. Rhee[17)]、Onyema Onyema[19)]

1) 独立行政法人国立病院機構　大阪医療センター
2) Community Resource Initiative, Boston
3) Georgetown University Hospital
4) Ruane Clinical Research Group, Inc.
5) Srinagarind Hospital, Khon Kaen University
6) Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol University
7) Perinatal HIV Research Unit-Soweto, University of the Witwatersrand
8) ID Care, Hillsborough
9) Institute for Global Health, University College London
10) King's College Hospital NHS Foundation Trust
11) East Sydney Doctors, Darlinghurst
12) Fundación Huésped, Buenos Aires
13) Department of Infectious Diseases, Inselspital, Bern University Hospital
14) Kaohsiung Medical University Hospital
15) Leiden University Center for Infectious Diseases, Leiden University Medical Center
16) Department of Infectious, Tropical Diseases and Acquired Immune Deficiency, Pomeranian Medical University
17) Gilead Sciences, Inc.
18) Merck & Co., Inc.
19) Yale School of Medicine, Yale University

O07-8 Once-Weekly Oral Islatravir/Lenacapavir (ISL/LEN) in Virologically Suppressed Adults with HIV-1: Week 48 Results in Japanese Subgroup from ISLEND-1 and ISLEND-2

谷口俊文[1)]、潟永博之[2)]、横幕能行[3)]、木内　英[4)]、猪狩英俊[1)]、白野倫徳[5)]、仲村秀太[6)]、初澤由香理[7)]、山田桃香[7)]、近藤　陽[8)]、Furong Wang[9)]、Hadas Dvory-Sobol[9)]、渡邊　大[10)]

1) 千葉大学医学部付属病院
2) 国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター
3) 独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター
4) 東京医科大学病院
5) 大阪市立総合医療センター
6) 琉球大学病院
7) MSD 株式会社
8) ギリアド・サイエンシズ株式会社
9) Gilead Sciences, Inc.
10) 独立行政法人国立病院機構　大阪医療センター

■日時：11 月 21 日（土）　9:20 ～ 10:10

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 8（社会・S）
陽性者支援

座長　大島　岳
（明治大学情報コミュニケーション学部）

高久陽介
（特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス）

O08-1 HIV 陽性者「全国ピアサポート円卓会議」の継続的展開 ―歴史・地域・世代をつなぐネットワークへ―

大島　岳[1,2)]、加藤力也[2)]、牧原信也[2)]、生島　嗣[2)]

1) 明治大学情報コミュニケーション学部
2) 認定 NPO 法人ぷれいす東京

O08-2 「YOUTH ミーティング」実施報告

宮城淳史[1)]、丹羽賢克[1)]、瀬戸伸彦[1)]、加藤力也[1)]、大島　岳[1,2)]、牧原信也[1)]、生島　嗣[1)]

1) 特定非営利活動法人ぷれいす東京
2) 明治大学

O08-3 HIV 陽性者における自殺念慮・計画・企図とその理由の実態の検討―HIV Futures Japan 第 4 回調査より

戸ヶ里泰典[1)]、井上洋士[2)]、高久陽介[3)]、大島　岳[4)]、阿部桜子[5)]、細川陸也[6)]、山内麻江[7)]、米倉佑貴[8)]、関由起子[9)]、塩野徳史[10)]、井上智史[11)]、伊藤佳七子[1)]、若林チヒロ[12)]

1) 放送大学
2) アクセライト
3) 日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス
4) 明治大学
5) TIS
6) 京都府立医科大学
7) 順天堂大学
8) 聖路加国際大学
9) 埼玉大学
10) 大阪青山大学
11) 九州大学
12) 埼玉県立大学

O08-4 外国人 HIV 感染者・AIDS 患者に対する多職種連携による診療支援の現状と課題

塚田真弓、富田　学、大谷真理子、松本幸則、宮崎泰斗、吉澤定子、舘田一博

東邦大学医療センター大森病院

■日時：11 月 21 日（土） 14:40 ～ 15:40
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

口演 9（社会・S）
ソーシャルワーク

座長 塚田訓久
（埼玉医科大学総合医療センター感染症科・感染制御科）
重信英子
（広島大学病院）

O9-1 早期 ART 開始を妨げうる自立支援医療認定の運用状況に関する考察

塚田訓久
埼玉医科大学総合医療センター

O9-2 HIV 感染血友病等患者の地域での安心・安全な長期療養のための支援課題に関する中間解析～二重の孤立

久地井寿哉[1)]、岩野友里[2)]、柿沼章子[2)]
1）社会福祉法人はばたき福祉事業団（エイズ予防財団リサーチレジデント）
2）社会福祉法人はばたき福祉事業団

O9-3 「感染しない」と知っていても怖い―HIV 感染症患者の維持透析受け入れで見えた医療従事者の本音―

竹石康広[1)]、菅沼信也[2)]、西澤喬光[1)]、斎藤裕太[1)]
1）菅沼会 腎内科クリニック世田谷 臨床工学部
2）菅沼会 腎内科クリニック世田谷 人工透析内科

O9-4 非拠点病院における受け入れ体制構築のためのブロック拠点病院等ソーシャルワーカーの試み

高橋昌也[1)]、山口みなみ[2)]、北村未季[2)]、工藤晃聖[3)]、三鍋佑馬[4)]、四戸 良[4)]、佐藤華絵[5)]、青野加奈子[6)]、中村翔太[6)]、横尾ゆかり[7)]、今村純子[8)]、岡本 学[9)]、重信英子[10)]、田中 透[11)]、中津千恵子[12)]、首藤美奈子[13)]、大里文誉[13)]、田村賢二[13)]、三嶋一輝[14)]
1）国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
2）北海道大学病院
3）札幌医科大学附属病院
4）旭川医科大学病院
5）仙台医療センター
6）石川県立中央病院
7）新潟大学医歯学総合病院
8）名古屋医療センター
9）大阪医療センター
10）広島大学病院
11）県立広島病院
12）広島市立広島市民病院
13）九州医療センター
14）福井大学医学部附属病院

O9-5 HIV 陽性者の地域医療機関受入れ困難の現状を地域で解決する体制構築の実践

重信英子[1)]、木梨貴博[2)]、中津千恵子[3)]、折本陽一[4)]、田中 透[5)]、尾崎陽子[3)]、梶原浩子[5)]、藤井輝久[1)]
1）広島大学病院
2）国立病院機構福山医療センター
3）広島市立病院機構広島市立広島市民病院
4）国立病院機構呉医療センター
5）広島県立病院機構県立広島病院

O9-6 商業文化空間における映像上映を通じた HIV・薬物のヘルスプロモーション―世界エイズデーの上映会・トークから考える「語れなさ」と対話の可能性―

大島 岳[1,2)]、生島 嗣[2)]
1）明治大学情報コミュニケーション学部
2）認定 NPO 法人ぷれいす東京

■日時：11 月 21 日（土） 14:40 ～ 15:30
■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 10（臨床・C）
看護・長期療養・チーム医療（1）

座長 渡部恵子
（北海道大学病院）
鈴木ひとみ
（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター）

O10-1 HIV 患者が家族へ病名告知を再考した心境の変化と意思決定支援

松崎麻美子[1)]、松枝 佑[2)]、中鉢香奈恵[1)]、加藤 笑[1)]、鎌田浩稔[4)]、和田達彦[2)]、高山陽子[3)]、山岡邦宏[2)]
1）北里大学病院看護部
2）北里大学病院リウマチ膠原病・感染内科
3）北里大学病院感染管理室
4）北里大学病院血液内科

O10-2 HIV 患者の転院調整の難しさと当院での取り組みについて

石井 恵、西村瑞穂
川崎医科大学附属病院

O10-3 自閉スペクトラム症疑いのある薬害 HIV 感染者に在宅療養支援を導入した一症例

鈴木ひとみ、青木孝弘、木村聡太、野崎宏枝、大金美和、宮本里香、大杉福子、中本貴人、上村 悠、照屋勝治、潟永博之
国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター

O10-4 自殺念慮を契機に多職種が関わり生活保護から経済的自立に至った症例―MSW―

池田　聖[1)]、中尾　綾[2)]、山之内純[2)]、若宮明子[3)]、宮崎雅美[3)]、乗松真大[4)]、廣岡昌史[1)]

1）愛媛大学医学部附属病院　総合診療サポートセンター
2）愛媛大学医学部附属病院　第一内科
3）愛媛大学医学部附属病院　看護部
4）愛媛大学医学部附属病院　薬剤部

O10-5 当センターにおける HIV 患者の予約外受診の実態調査～性感染症に注目した報告

向井博子[1,2)]、杉野祐子[1)]、鈴木ひとみ[1)]、池田和子[1)]、谷口　紅[1)]、大杉福子[1)]、野崎宏枝[1)]、佐々木愛美[1)]、大金美和[1)]、高橋昌也[1)]、木村聡太[1)]、大友　健[1)]、宮本里香[1)]、照屋勝治[1)]、潟永博之[1)]

1）国立健康危機管理研究機構国際医療センター
2）公益財団法人エイズ予防財団リサーチレジデント

■日時：11 月 21 日（土）　15:40 ～ 16:30

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 11（臨床・C）
抗 HIV 療法（switch・非製薬）

座長　**安達英輔**
（東京大学医科学研究所病院）

吉野友祐
（帝京大学医学部微生物学講座 帝京大学アジア国際感染症制御研究所）

O11-1 抗 HIV 療法と服薬援助のための基礎的調査ー抗 HIV 薬の薬剤変更状況調査（2026 年）

関根祐介[1)]、澤田暁宏[2)]、増田純一[3)]、小島賢一[4)]

1）東京医科大学病院　薬剤部
2）兵庫医科大学 呼吸器・血液内科
3）国立国際医療センター　薬剤部
4）荻窪病院 血液凝固科

O11-2 BIC/FTC/TAF と DTG/3TC へのスイッチ後 240 週ウイルス学的アウトカム：どちらを選んでも長期成績は同程度

小西啓司[1,2)]、上平朝子[1)]、廣田和之[1)]、上地隆史[1)]、中嶋恵理子[1)]、西田恭治[1)]、白阪琢磨[1)]、渡邊　大[3)]

1）独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 感染症内科
2）大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学
3）大阪大学大学院医学系研究科連携大学院 エイズ先端医療学

O11-3 抗 HBV 活性を有さない ART への切り替え後における HBV 感染・再活性化の臨床的リスク：20 年間コホート研究

安達英輔、岡崎逢子、菅野芳明、古賀道子、四柳　宏

東京大学医科学研究所　附属病院感染免疫内科

O11-4 HBc 抗体陽性 HIV 感染者における DTG/3TC 療法の HBV 再活性化リスクの検討

大谷真理子[1,2)]、吉澤定子[3)]、横尾卓也[1)]、塚田真弓[2)]、前田　正[4)]、宮崎泰斗[2,4)]、舘田一博[2)]、松本高広[1)]

1）東邦大学医療センター大森病院薬剤部
2）東邦大学医療センター大森病院感染管理部
3）東邦大学医療センター大森病院臨床検査部
4）東邦大学医療センター大森病院総合診療・急病センター

O11-5 BIC/FTC/TAF または DTG + FTC/TAF から DTG/3TC への治療変更が体重および代謝プロファイルに与える影響：無作為化オープンラベル試験 (96 週解析)

南　建輔[1)]、笹原鉄平[1)]、伊東　剛[2)]、岡本　耕[3,4)]、阪下健太郎[5)]、布野聖太[1)]、三重野牧子[6)]、畠山修司[1,3)]

1）自治医科大学　感染・免疫学講座　感染症学部門
2）済生会宇都宮病院　総合内科
3）東京都立大久保病院　感染症内科
4）東京科学大学大学院　医歯学総合研究科　統合臨床感染症学分野
5）高山赤十字病院　呼吸器内科
6）自治医科大学　情報センター

■日時：11 月 21 日（土） 15:30 ～ 16:20
■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 12（臨床・C）
看護・長期療養・チーム医療（2）

座長 前田サオリ
（琉球大学病院）
高木雅敏
（熊本大学医学部附属病院）

O12-1 進行性多巣性白質脳症を併発した HIV 関連 DLBCL 患者の施設看取り支援（第 1 報）－がん看護専門看護師と連携し自宅退院までの代理意思決定支援－

中村美保[1,3]、弘末美佐[2,3]、荒川　悠[1,4]、西田拓洋[1]、竹村美香[3]、土居安世[1,3]、江田仁海[5]、勝賀瀬智大[6]、松本　務[7]、盛實篤史[1,8]

1）高知大学医学部附属病院　エイズケアチーム
2）高知大学医学部附属病院　がん治療センター
3）高知大学医学部附属病院　看護部
4）高知大学医学部附属病院　感染症科
5）高知大学医学部附属病院　血液内科
6）高知大学医学部附属病院　脳神経内科
7）医療法人そらのいろ　あおぞら診療所高知潮江
8）高知大学医学部附属病院　総合診療部

O12-2 進行性多巣性白質脳症を併発した HIV 関連 DLBCL 患者の施設看取り支援（第 2 報）―地域療養における多職種連携と代理意思決定支援―

弘末美佐[1,3]、中村美保[2,3]、荒川　悠[2,4]、西田拓洋[2]、竹村美香[3]、土居安世[2,3]、江田仁海[5]、勝賀瀬智大[6]、松本　務[7]、盛實篤史[2,8]

1）高知大学医学部附属病院　がん治療センター
2）高知大学医学部附属病院　エイズケアチーム
3）高知大学医学部附属病院　看護部
4）高知大学医学部附属病院　感染症科
5）高知大学医学部附属病院　血液内科
6）高知大学医学部附属病院　脳神経内科
7）医療法人そらのいろ　あおぞら診療所高知潮江
8）高知大学医学部附属病院　総合診療部

O12-3 進行性多巣性白質脳症を併発した HIV 関連 DLBCL 患者の施設看取り支援（第 3 報）―在宅緩和ケア、施設看取りを支える多職種連携―

松本　務[1]、弘末美佐[2,4]、中村美保[3,4]、荒川　悠[3,5]、西田拓洋[3]、竹村美香[4]、土居安世[3,4]、江田仁海[6]、勝賀瀬智大[7]、盛實篤史[3,8]

1）医療法人そらのいろ　あおぞら診療所高知潮江
2）高知大学医学部附属病院　がん治療センター
3）高知大学医学部附属病院　エイズケアチーム
4）高知大学医学部附属病院　看護部
5）高知大学医学部附属病院　感染症科
6）高知大学医学部附属病院　血液内科
7）高知大学医学部附属病院　脳神経内科
8）高知大学医学部附属病院　総合診療部

O12-4 ALS 進行を契機に夫の HIV 感染を知った妻へ心理的支援の実践

正木るり子、堀知津江、井田真由美

地方独立行政法人　堺市立病院機構　堺市立総合医療センター　看護局

O12-5 HIV 感染症診療開始から HIV 看護模索・定着までの軌跡ー 1994 年からの約 30 年間を振り返るー

宮林優子

藍プラン

■日時：11 月 21 日（土） 16:20 ～ 17:10
■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 13（臨床・C）
抗 HIV 療法（動向・取り組み）

座長 白野倫徳
（大阪市立総合医療センター感染症内科）
小西啓司
（国立病院機構 大阪医療センター）

O13-1 日本における複雑なレジメン下でウイルス学的抑制を達成している HIV 陽性者の臨床的特徴と治療パターン：電子カルテを用いたリアルワールドデータベース研究

Soodi Navadeh[1]、田口　直[2]、Jesse Najarro Cermeno[3]、Yamaura Reiko[4]、Siming Chen[4]、Mellissa Williamson[1]、Peter Sklar[1]、渡邊　大[5]

1）Gilead Sciences, Inc, Foster City, CA, USA.
2）Gilead Sciences K.K, Tokyo, Japan
3）Gilead Sciences, Inc, Parsippany, NJ, USA
4）IQVIA Solutions Japan
5）国立病院機構 大阪医療センター , 大阪 , 日本

O13-2 **抗 HIV 療法と服薬援助のための基礎的調査－治療開始時の抗 HIV 薬処方動向調査（2026 年）**

澤田暁宏[1)]、関根祐介[2)]、増田純一[3)]、小島賢一[4)]

1）兵庫医科大学　血液内科
2）東京医科大学病院　薬剤部
3）国立国際医療センター　薬剤部
4）荻窪病院　血液凝固科

O13-3 **当センターにおける抗 HIV 療法レジメンの現状**

青木孝弘、桑田　亮、川島　亮、井上恵理、中本貴人、安藤尚克、上村　悠、水島大輔、源河いくみ、矢崎博久、照屋勝治、菊池　嘉、潟永博之

国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

O13-4 **当センターにおける長時間作用型筋肉注射製剤の導入状況**

青木孝弘、桑田　亮、川島　亮、井上恵理、中本貴人、安藤尚克、上村　悠、水島大輔、源河いくみ、矢崎博久、照屋勝治、菊池　嘉、潟永博之

国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

O13-5 **民間クリニックにおける HIV 陽性者治療継続受入れ：予防から治療までの実践報告**

清水健伍[1,2)]、石内崇勝[1,3)]、川邊卓馬[1)]、岡田礼奈[1)]、三上　蓮[1)]、吉田菜乃[1)]、坂元奈桜[1,2)]、吉田昂汰[1,3)]

1）一般社団法人天照会　いだてんクリニック
2）滋賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻
3）熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター

■日時：11 月 21 日（土）　16:50 ～ 17:40

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 14（臨床・C）
日和見感染・悪性腫瘍・肝炎（1）

座長　四本美保子
（東京医科大学病院臨床検査医学科）

照屋勝治
（国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター）

O14-1 **血友病合併 HIV/HCV 重複感染性肝硬変に対するホスセンビビントの第 II 相試験：投与終了後 52 週後観察結果**

木村公則[1)]、生駒明美[2)]、岡本典代[1)]、遠藤知之[3)]、阪森亮太郎[4)]、四本美保子[5)]、四柳　宏[6)]、潟永博之[7)]

1）東京都立駒込病院肝臓内科
2）東京都立駒込病院臨床研究・治験センター
3）北海道大学病院感染制御部
4）国立病院機構大阪医療センター 消化器内科
5）東京医科大学病院臨床検査医学科
6）国立健康危機管理研究機構
7）国立健康危機管理研究機構国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター

O14-2 **日本の HIV 陽性者 (PWH) における B 型肝炎ウイルス (HBV) 新規感染および再活性化の発生率と患者特性：後ろ向きデータベース研究**

木内　英[1)]、田口　直[2)]、Neia Prata Menezes[3)]、Tali Cassidy[3)]、Leland Yee[3)]、原田 圭輔[2)]、KuanYeh Lee[2)]、堤　武也[4)]

1）東京医科大学　臨床検査医学分野
2）ギリアド・サイエンシズ株式会社
3）Gilead Sciences Inc.
4）東京大学大学院医学系研究科　感染制御学

O14-3 **当院における HIV 陽性悪性腫瘍患者に対する免疫チェックポイント阻害薬投与 14 例の臨床経過**

関谷綾子[1,2)]、鄭　瑞雄[1)]、相澤陽太[1)]、福島一彰[1)]、田中　勝[1)]、小林泰一郎[1)]、味澤　篤[1)]、今村顕史[1)]

1）がん感染症センター都立駒込病院
2）東京医科大学臨床検査医学分野

O14-4 HIV/HCV 合併血友病患者に対する長期肝検診の意義：HCV 治療後の肝予備能推移を中心に

右田一成、原　貴信、藤好真人、松島　肇、濱田隆志、布下裕基、中村　瞬、亀浜郁佳、笠伸大朗、今村一歩、木下綾華、足立智彦、江口　晋

長崎大学大学院外科学講座　腹部・移植再生外科学分野

O14-5 ART 施行中の HIV 感染女性において頸管内進展を認めた HPV52 型関連 HSIL の一例

佐藤　健[1)]、後藤亜香利[1)]、川村志野[2)]、西堀考亮[1)]、幸高響子[1)]、南　元遥[1)]、赤坂俊輔[1)]、白土翔太郎[1)]、吉田正宏[1)]、堀口拓人[1)]、井山　諭[1)]、近江谷佳奈[2)]、稗田広美[2)]、平賀多絵子[2)]、又村了輔[3)]、國本雄介[3)]、宮越郁子[2)]、小船雅義[1)]

1）札幌医科大学附属病院　血液内科
2）札幌医科大学附属病院　看護部
3）札幌医科大学附属病院　薬剤部

■日時：11 月 21 日（土）　17:30 ～ 18:20

■会場：第 3 会場（岡山コンベンションセンター 2F レセプションホール）

口演 15（社会・S）
薬物使用・疫学

座長　新田慎一郎
（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部）

戸ヶ里泰典
（放送大学）

O15-1 薬物使用・HIV 支援における当事者参画型ワークショップの開催

新田慎一郎[1,2,3)]、村崎美和[4)]、山口正純[5)]、曽根隆純[2)]、福正大輔[2)]、大島　岳[6)]、岡本　学[7)]、西川篤郎[2)]、生島　嗣[2)]

1）国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部
2）特定非営利活動法人 ぷれいす東京
3）医療法人社団ゆうりん ゆうりんクリニック
4）学校法人北里研究所北里大学北里研究所病院
5）一般財団法人博慈会 長寿リハビリセンター病院
6）明治大学
7）大阪医療センター

O15-2 薬物使用経験者が地域に求めるハームリダクション的支援サービス～当事者参加型ブレーンストーミングによる質的分析

山口正純[1)]、新田慎一郎[2,3,4)]、村崎美和[5)]、曽根隆純[3)]、生島　嗣[3)]

1）一般財団法人博慈会 長寿リハビリセンター病院 内科
2）国立精神・神経医療研究センター
3）特定非営利活動法人ぷれいす東京
4）ゆうりんクリニック
5）学校法人北里研究所北里大学北里研究所病院

O15-3 薬物を使用することがある当事者と協働して編み上げる脱スティグマ化の言葉―エイズ予防指針改正にみるハームリダクションの実践

ことうごろう[1,2)]

1）日本薬物政策アドボカシーネットワーク
2）ハームリダクション東京

O15-4 HIV 免疫機能障害認定における CD4 値の単回測定の妥当性―11 施設 1,306 例の多施設後向きコホート解析

谷口俊文[1)]、村松　崇[2)]、南　留美[3)]、仲村秀太[4)]、安達英輔[5)]、関谷綾子[6)]、福島一彰[6)]、今村淳治[7)]、白野倫徳[8)]、吉野友祐[9)]、平井由児[10)]、今橋真弓[11)]

1）千葉大学医学部附属病院
2）東京医科大学病院
3）国立病院機構九州医療センター
4）琉球大学
5）東京大学医科学研究所附属病院
6）がん・感染症センター都立駒込病院
7）国立病院機構仙台医療センター
8）大阪市立総合医療センター
9）帝京大学
10）東京医科大学八王子医療センター
11）国立病院機構名古屋医療センター

■日時：11 月 21 日（土）　17:30 ～ 18:30

■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 16（臨床・C）
PrEP とジェンダー＋α

座長　水島大輔
（国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター）

池袋　真
（パーソナルヘルスクリニック横浜院）

O16-1 SH 外来通院者における PrEP を使用しない理由

高野　操、水島大輔、田中和子、新谷由衣、金城理奈、山中宏江、市河有由希、青木孝弘、安藤尚克、照屋勝治、潟永博之、岡　慎一

国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター

O16-2 トランスジェンダーの人々における性感染症の実態と性行動・予防行動との関連

石内崇勝[1)]、川邊卓馬[1)]、岡田礼奈[1)]、三上　蓮[1)]、吉田菜乃[1)]、坂元奈桜[1)]、清水健伍[1)]、吉田昂汰[1,2)]

1）一般社団法人天照会　いだてんクリニック
2）熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター

O16-3 HIV-PrEP 使用中のシスジェンダー女性における Doxy-PrEP 使用と性感染症罹患率の検討

吉田昂汰[1,2)]、川邊卓馬[1)]、岡田礼奈[1)]、三上　蓮[1)]、吉田菜乃[1)]、坂元奈桜[1)]、清水健伍[1)]、石内崇勝[1,2)]

1）一般社団法人天照会　いだてんクリニック
2）熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター

O16-4 東京の MSM コホートにおける PrEP および DoxyPEP の利用者増加による性感染症疫学の変遷

水島大輔、新谷由衣、高野　操、安藤尚克、青木孝弘、岡　慎一、潟永博之

国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

O16-5 婦人科での PrEP 診療の実践：女性ユーザーの動向と課題

池田詩子[1)]、池田　博[2)]、市原浩司[3)]、砂押研一[4)]、生島　嗣[5)]、三輪岳史[5)]、高野　操[6)]、水島大輔[6)]

1）宮の森レディースクリニック
2）池田内科
3）札幌中央病院　泌尿器科
4）ていね駅前泌尿器科
5）特定非営利活動法人ぷれいす東京
6）国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

O16-6 抗レトロウイルス療法関連 CKD に対しダパグリフロジン投与後に長期的な eGFR 改善を認めた一例

新江裕貴[1,2)]、星野慎一[3)]、諸見奈緒[4)]、徳嶺光市[5)]、古波蔵健太郎[6)]

1）琉球ヘルスパートナーズ合同会社
2）株式会社沖縄ファーマシー
3）沖縄県立北部病院　内科
4）沖縄県立北部病院　薬局
5）沖縄県立中部病院　薬局
6）琉球大学病院　血液浄化療法部

■日時：11 月 21 日（土）　17:40 ～ 18:30
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 17（臨床・C）
日和見感染・悪性腫瘍・肝炎（2）

座長　今村淳治
（国立病院機構仙台医療センター）

座長　高濱宗一郎
（九州医療センター　免疫感染症内科）

O17-1 薬害 HIV 感染被害者を対象とした多機関がんスクリーニング研究

古賀道子[1)]、福田あかり[1)]、柿沼章子[2)]、後藤智巳[2)]、花井十伍[3)]、森戸克則[3)]、橋本則久[3)]、南　留美[4)]、渡邊　大[5)]、藤井輝久[6)]、石坂　彩[1)]、伊藤俊広[7)]、今橋真弓[8)]、江口　晋[9)]、遠藤知之[10)]、木内　英[11)]、阪森亮太郎[5)]、高橋俊二[12)]、田中貴大[1)]、照屋勝治[13)]、丹生健一[14)]、藤谷順子[13)]、保坂　隆[1)]、茂呂　寛[15)]、横幕能行[8)]、渡邉珠代[16)]、四柳　宏[1,13)]

1）東京大学医科学研究所
2）はばたき福祉事業団
3）ネットワーク医療と人権
4）九州医療センター
5）大阪医療センター
6）広島大学病院
7）仙台医療センター
8）名古屋医療センター
9）長崎大学
10）北海道大学病院
11）東京医科大学
12）がん研究会
13）国立健康危機管理研究機構
14）神戸大学
15）新潟大学医歯学総合病院
16）石川県立中央病院

O17-2 薬害 HIV 感染血友病患者の癌スクリーニング研究の報告

上村　悠、小形幹子、桑田　亮、川島　亮、井上恵理、安藤尚克、中本貴人、水島大輔、青木孝弘、照屋勝治、潟永博之

日本健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター

O17-3 HIV・HBV・HCV 感染者における悪性腫瘍合併例の予後比較：単施設後方視的調査

畠山成寛[1)]、神　　葵[1)]、西山由真[1)]、安島秀友[1)]、坂本靖宜[1)]、井出和男[1)]、寒川　整[2)]、小池博文[1)]

1）横浜市立大学附属病院薬剤部
2）横浜市立大学医学部　血液・免疫・感染症内科

O17-4 CAB/RPV 導入後に B 型急性肝炎を発症し、HBs セロコンバージョン後に再導入した PLWH の 1 例

一木昭人、大崎俊樹、原田侑子、金子　竣、宮下竜伊、近澤悠志、備後真登、村松　崇、四本美保子、天野景裕、木内　英

東京医科大学病院臨床検査医学科

O17-5 HIV 診断後急性期以降における非結核性抗酸菌症発症リスク：JMDC 医療機関データベースを用いた後ろ向きコホート研究

加藤貴史[1)]、西村　拓[2)]、鈴木祐平[2)]、森本康弘[1)]、武田啓太[1)]、佐々木結花[1)]、永井英明[1)]

1）NHO 東京病院呼吸器内科
2）NHO 東京病院臨床研究部

■日時：11 月 22 日（日）　8:30 ～ 9:20

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 18（臨床・C）
生活習慣病合併症（1）

座長　宇野健司
（南奈良総合医療センター　感染症内科）

関谷綾子
（がん感染症センター都立駒込病院）

O18-1 日本の男性 HIV 感染者と非感染者における生活習慣病および関連指標の比較検討：JMDC レセプトデータベースを用いた健康診断結果の実測値に基づく横断研究

山下耕平[1)]、池内和彦[1)]、関谷綾子[2)]、有里勇輝[1,2)]、松本慎也[3)]、岸田季之[1)]、四柳　宏[4)]、堤　武也[1,3)]

1）東京大学医学部附属病院　感染症内科
2）がん・感染症センター　都立駒込病院
3）東京大学医学部附属病院　感染制御部
4）国立健康危機管理研究機構

O18-2 HIV 陽性・陰性血友病患者における冠動脈狭窄の比較検討

遠藤知之[1,2,3)]松川敏大[2,3)]、荒　隆英[3)]、長谷川祐太[2,3)]、森木朝子[3,4)]、高橋知希[3,4)]、相庭昌之[3,4)]、後藤秀樹[2,3)]、中川雅夫[3)]、加畑　馨[3,5)]、豊嶋崇徳[3)]

1）北海道大学病院　感染制御部
2）北海道大学病院　HIV 診療支援センター
3）北海道大学病院　血液内科
4）エイズ予防財団
5）北海道大学病院　医療・ヘルスサイエンス研究開発機構

O18-3 People Living with HIV(PLWH) における動脈硬化リスクと運動習慣：習慣の維持・中断が経時的変化に及ぼす影響

南　留美[1)]、高濱宗一郎[1)]、小松真梨子[1)]、犬丸真司[2)]、中川ともみ[2)]、長与由紀子[2)]

1）国立病院機構九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター
2）国立病院機構九州医療センター看護部

O18-4 HIV 患者における C 型肝炎治癒後の肝線維化および脂肪化の評価

石川和宏[1)]、村松　崇[2)]、金子　竣[2)]、原田侑子[2)]、一木昭人[2)]、宮下竜伊[2)]、近澤悠志[2)]、備後真登[2)]、四本美保子[2)]、萩原　剛[2)]、天野景裕[2)]、木内　英[2)]

1）江戸川病院感染制御部
2）東京医科大学病院臨床検査医学科

O18-5 HIV 陽性者の腎機能と、日常診療における評価方法についての検討

渡邉珠代[1)]、小谷岳春[2)]、車　陽子[3)]、石井智美[3)]、浅田裕子[3)]

1）石川県立中央病院免疫感染症科
2）石川県立中央病院血液内科
3）石川県立中央病院看護部

■日時：11 月 22 日（日）　8:30 ～ 9:20

■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 19（臨床・C）
U=U・挙児希望・母子感染・歯科

座長　白野倫徳
（大阪市立総合医療センター感染症内科）

羽柴知恵子
（国立病院機構　名古屋医療センター）

O19-1 感染判明年齢から見た HIV 感染妊娠の特徴に関する検討

杉浦　敦[1)]、岡本　峻[1,2)]、湊　怜子[1,2)]、山本皇之祐[2)]、山中彰一郎[2)]、竹田善則[2)]、市田宏司[2)]、小林裕幸[2)]、中西美紗緒[2)]、箕浦茂樹[2)]、高野政志[2)]、桃原祥人[2)]、田中瑞恵[2)]、出口雅士[2)]、喜多恒和[2)]、吉野直人[2)]

1）武蔵野赤十字病院　産婦人科
2）HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究班

O19-2　HIV 感染児の長期予後と成人期移行の現状 ― 小児科二次調査登録症例の追跡調査 ―

田中瑞恵 [1)]、外川正生 [2)]、兼重昌夫 [1,2)]、前田尚子 [2)]、青天目信 [2)]、奥野英雄 [2)]、北島浩二 [1,2)]、佐々木泰治 [1,2)]、杉浦　敦 [2)]、喜多恒和 [2)]、吉野直人 [2)]

1）国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター
2）エイズ対策政策研究事業「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究」班（母子感染研究班）

O19-3　HIV 母子感染撲滅のために性感染症予防をいかに啓発していくか～ SNS を用いた情報発信の動向～

高野政志 [1,2)]、喜多恒介 [1,3)]、川島史奈 [1,3)]、鈴木ひとみ [1)]、羽柴知恵子 [1)]、三上由美子 [1)]、出口雅士 [1)]、杉浦　敦 [1)]、田中瑞恵 [1)]、高橋尚子 [1)]、喜多恒和 [1)]、吉野直人 [1)]

1）厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV 感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の 開発および 診療体制の整備と均てん化のための研究（HIV 母子感染研究班）」班
2）防衛医科大学校　産科婦人科学講座
3）株式会社キタイエ

O19-4　急性 HIV 感染者の臨床的特徴および確定診断到達期間の検討

松川敏大 [1,2)]、高橋知希 [1,3)]、森木朝子 [1,3)]、長谷川祐太 [1,2)]、遠藤知之 [1,2,4)]

1）北海道大学病院血液内科
2）北海道大学病院 HIV 診療支援センター
3）エイズ予防財団
4）北海道大学病院感染制御部

O19-5　歯科衛生士国家試験における HIV 感染症に関する出題状況の検討

宇佐美雄司 [1)]、中川裕美子 [2)]、上嶋伸知 [1)]、小田知生 [1)]

1）名古屋医療センター歯科口腔外科
2）大手前短期大学歯科衛生学

■日時：11 月 22 日（日）　9:20 ～ 10:10

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 20（臨床・C）
看護・長期療養・チーム医療／メンタルヘルス

座長　田中美佐子
（産業医科大学病院）

東　政美
（国立病院機構 大阪医療センター）

O20-1　HIV 感染症患者の転院支援に向けた薬剤管理サマリー作成に関するアンケート調査

濱砂恵理香 [1)]、野村直幸 [1)]、森木智子 [1)]、濱岡照隆 [2)]

1）国立病院機構　関門医療センター　薬剤部
2）国立病院機構　福山医療センター　薬剤部

O20-2　自殺念慮を契機に多職種が関わり生活保護から経済的自立に至った症例ー心理士ー

中尾　綾 [1)]、池田　聖 [2)]、山之内純 [1)]、若宮明子 [3)]、本園　薫 [3)]、宮崎雅美 [3)]、乗松真大 [4)]、竹中克斗 [1)]

1）愛媛大学医学部附属病院　第一内科
2）愛媛大学医学部附属病院　総合診療サポートセンター
3）愛媛大学医学部附属病院　看護部
4）愛媛大学医学部附属病院　薬剤部

O20-3　精神科単科病院における HIV 検査の実態

西村康平

神奈川県立精神医療センター

O20-4　トランスジェンダー女性の造腟術後腟における局所環境と HIV 予防支援 ―帯下異常を呈した 4 症例の検討―

河瀬里美 [1)]、池袋　真 [1)]、久我伊万里 [1)]、佐藤郁実 [1)]、新井由紀 [2)]、塩尻大輔 [1)]

1）医療法人社団マキマ会　パーソナルヘルスクリニック
2）New York Electrolysis Office

■日時：11 月 22 日（日） 9:20 ～ 10:10
■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 21（臨床・C）
薬害・体重増加・副作用／臨床疫学・IPDA

座長　照屋勝治
（国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター）

三木浩和
（徳島大学病院　輸血・細胞治療部）

O21-1　ART 開始後の体重増加と糖尿病新規発症との関連

村松　崇、大崎俊樹、金子　竣、原田侑子、宮下竜伊、加藤千博、上久保淑子、山口知子、一木昭人、近澤悠志、備後真登、関谷綾子、四本美保子、萩原　剛、天野景裕、木内　英
東京医科大学病院　臨床検査医学科

O21-2　HIV 感染者におけるクレアチニンおよびシスタチン C に基づく推算糸球体濾過量の相違

吉村幸浩[1)]、西場大喜[1)]、宗　佑奈[1)]、伊東裕史[2)]、長谷川直樹[1)]
1）横浜市立市民病院感染症内科
2）横浜市立市民病院救急診療科

O21-3　薬害エイズ患者におけるリポジストロフィーの検討

中村信元[1)]、冨永誠記[2)]、秋月佐代[2)]、岡本秀樹[2)]、後藤由香[2)]、泉　侑希[3)]、片岡　梢[3)]、矢野由美子[3)]、後藤さおり[3)]、河野美咲[4)]、三木浩和[5)]
1）徳島大学大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学分野
2）徳島大学病院　患者支援センター
3）徳島大学病院　感染制御部
4）徳島大学病院　看護部
5）徳島大学病院　輸血・細胞治療部

O21-4　抗 HIV 療法における Intact Proviral DNA Assay（IPDA）法を用いた評価についての検討

宮田美保[1)]、土屋亮人[1)]、川島　亮[1,2)]、松田幸樹[3)]、前田賢次[3)]、佐藤賢文[4)]、潟永博之[1,2)]
1）国立健康危機管理研究機構　国立国際医療センター　エイズ治療・研究開発センター
2）熊本大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター
3）鹿児島大学　ヒトレトロウイルス学共同研究センター
4）北海道大学　病原微生物学講座

O21-5　ウイルス抑制下で CD4 陽性リンパ球数低値が遷延する HIV 感染者における感染症の時間的推移の検討

宗　佑奈[1)]、西場大喜[1)]、伊東裕史[2)]、宮田順之[1)]、吉村幸浩[1)]、長谷川直樹[1)]
1）横浜市立市民病院　感染症内科
2）横浜市立市民病院　救急診療科

■日時：11 月 22 日（日） 10:40 ～ 11:30
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 22（臨床・C）
薬剤師・服薬アドヒアランス／薬剤耐性

座長　松木克仁
（名古屋医療センター　薬剤部　試験検査主任）

上原　仁
（琉球大学病院薬剤部）

O22-1　HIV 感染症治療におけるトレーシングレポートを活用した薬薬連携の有用性

中内崇夫[1)]、矢倉裕輝[1,2)]、岸田啓太郎[1)]、祝洸太朗[1)]、上平朝子[3)]、渡邊　大[2,3)]
1）国立病院機構 大阪医療センター 薬剤部
2）国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端医療研究部
3）国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科

O22-2　HIV 感染症患者に対する WEB 薬薬連携システム運用の実践と有用性評価

日笠真一、島袋翔多、秀田恭子、仲井俊行、石原香子、中村豪志、田中邦佳
兵庫医科大学病院　薬剤部

O22-3　2025 年度 HIV-1 薬剤耐性検査外部精度評価の報告

吉田　繁[1)]、松田昌和[2)]、今橋真弓[2)]、岡田清美[3)]、奥出美穂[4)]、林田庸総[8)]、佐藤かおり[5)]、岩崎澄央[5)]、遠藤知之[6)]、西澤雅子[7)]、椎野禎一郎[8)]、潟永博之[8)]、豊嶋崇徳[6)]、杉浦　亙[8)]、吉村和久[9)]、菊地　正[7)]
1）北海道医療大学
2）NHO 名古屋医療センター
3）北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所
4）株式会社 LSI メディエンス
5）北海道大学病院検査・輸血部
6）北海道大学病院血液内科
7）国立感染症研究所
8）国立健康危機管理研究機構
9）東京都健康安全研究センター

O22-4 過去に検出された HIV 薬剤耐性変異の累積に基づく治療後薬剤耐性保有率

菅野芳明[1)]、菊地　正[1,2)]、久保田めぐみ[1)]、千光寺智恵[1)]、岡崎逢子[1,3)]、古賀道子[1,3)]、安達英輔[1)]、四柳　宏[1,4)]

1）東京大学医科学研究所附属病院　感染免疫内科
2）国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　エイズ研究センター
3）東京大学　国際高等研究所 新世代感染症センター　感染症研究分野
4）国立健康危機管理研究機構

■日時：11 月 22 日（日）　10:40 ～ 11:30

■会場：第 5 会場（岡山県医師会館 3F 三木記念ホール）

口演 23（臨床・C）
症例報告（1）

座長　今村淳治
（国立病院機構仙台医療センター）

今橋真弓
（名古屋医療センター臨床研究センター感染・免疫研究部）

O23-1 体外式膜型人工肺（ECMO）と経腸栄養投与下において簡易懸濁法で投与したビクテグラビルの血中濃度をモニタリングした1例

新井崇之[1,2)]、田澤佑基[1,2)]、長谷川祐太[2,3)]、遠藤知之[2,4)]、武隈　洋[1)]、菅原　満[1,5)]

1）北海道大学病院薬剤部
2）北海道大学病院 HIV 診療支援センター
3）北海道大学病院血液内科
4）北海道大学病院感染制御部
5）北海道大学大学院薬学研究院

O23-2 NRTI 非含有レジメン変更後に HBV 再活性化をきたした isolated anti-HBc 陽性 HIV 感染者の 1 例

中川翔太、馬場有夢、菊地真歩、宮本智美、中拂一彦、保科斉生、堀野哲也

東京慈恵会医科大学内科学講座感染症内科

O23-3 悪性リンパ腫と進行性多巣性白質脳症を合併した後天性免疫不全症候群の一例

荒川　悠[1,2)]、山岸由佳[1,2)]

1）高知大学医学部臨床感染症学講座
2）高知大学医学部附属病院感染管理部

O23-4 身元不明の進行 AIDS 患者における集中治療と社会的・倫理的課題の検討

成田　雅[1)]、宮城　有[1)]、喜舎場利恵[1)]、渡慶次真由美[1)]、向井三穂子[1)]、張　慶哲[1)]、新里盛朗[1)]、星野耕大[1)]、外間　亮[1)]、高江洲怜[1)]、川田　聡[1)]、金城隆展[2)]

1）沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
2）琉球大学病院　地域・国際医療部　特命助教

■日時：11 月 22 日（日）　11:30 ～ 12:20

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 24（臨床・C）
生活習慣病合併症・高齢化

座長　来住知美
（日本パプテスト病院 総合内科）

今北菜津子
（奈良県立医科大学 感染症内科学講座）

O24-1 当院における HIV 陽性患者維持血液透析 19 例の後方視的検討

中嶋恵理子[1)]、上平朝子[1)]、小西啓司[1)]、廣田和之[1)]、上地隆史[1)]、西田恭治[1)]、白阪琢磨[1)]、楠　康生[2)]、渡邊　大[1)]

1）独立行政法人国立病院機構大阪医療センター感染症内科
2）独立行政法人国立病院機構大阪医療センター腎臓内科

O24-2 女性 HIV 感染者の健康診断結果の解析：JMDC データを用いた横断研究

池内和彦[1)]、松下清香[1)]、山下耕平[1)]、有里勇輝[1,2)]、松本慎也[1)]、岸田季之[1)]、関谷綾子[2)]、四柳　宏[3)]、堤　武也[1)]

1）東京大学医学部附属病院感染症内科
2）がん・感染症センター都立駒込病院
3）国立健康危機管理研究機構

O24-3 PLWH の皮膚疾患～ざ瘡・アトピー性皮膚炎・乾癬を中心に～

谷口　恭

谷口医院

O24-4 ART 施行中の HIV 感染症患者における肥満関連合併症への包括的アプローチ

阿部公俊[1)]、今井三枝子[2)]、叶内　至[3)]、高嶋英樹[4)]、中尾安秀[4)]

1）新松戸中央総合病院糖尿病・内分泌代謝内科
2）新松戸中央総合病院看護部
3）新松戸中央総合病院薬剤部
4）新松戸中央総合病院総合診療科・感染症内科

O24-5　HIV 陽性者のオーラルフレイル・口腔機能低下症の評価

鈴木信治[1)]、吉村幸浩[2)]、池野　良[1)]、加藤尊巳[1)]、鈴木　彰[1)]、朱　薫子[3)]、田村　彩[4)]、千葉容太[1)]、中澤よう子[5)]、本間隆之[6)]、宮田順之[2)]、川井直樹[1)]

1）神奈川県歯科医師会
2）横浜市立市民病院感染症内科
3）フリーランス
4）神奈川県健康増進課
5）神奈川県予防医学協会
6）株式会社マイ . ビジネスサービス

■日時：11 月 22 日（日）　11:30 ～ 12:20

■会場：第 5 会場（岡山県医師会館 3F 三木記念ホール）

口演 25（臨床・C）
症例報告・その他

座長　福島一彰
（がん・感染症センター都立駒込病院　感染症科 / 感染制御科）

岡田健作
（鳥取大学医学部附属病院）

O25-1　PCP 治療後 ART 未導入中にクリプトコッカス髄膜炎を発症し、ART 導入時期の判断に苦慮した一例

藤崎知園子[1,3)]、武　義人[2)]、平松　有[2)]、竹之内和則[3,4)]、大山陽子[3)]、東　貞行[4)]、田原明人[3)]、川村英樹[5)]、山口宗一[1,3,4)]、高嶋　博[2)]、橋口照人[3,4)]

1）鹿児島大学先端科学研究推進センター研究支援ユニット バイオバンク部門
2）鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経内科・老年病学分野
3）鹿児島大学病院　検査部
4）鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　血管代謝病態解析学分野
5）鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　感染症専門医養成講座

O25-2　抗 HBV 作用を有する核酸系逆転写酵素阻害薬の投与下に服薬アドヒアランス不良を背景として HBV の初感染をきたした一例

菊地真歩、馬場有夢、中川翔太、宮本智美、中拂一彦、保科斉生、堀野哲也

東京慈恵会医科大学　感染症内科

O25-3　脳炎を発症し髄液からサイトメガロウイルスと水痘・帯状疱疹ウイルスが検出された AIDS 患者の一例

高嶋英樹[1)]、今井三枝子[2)]、叶内　至[3)]、阿部公俊[4)]、中尾安秀[1)]

1）医療法人財団明理会新松戸中央総合病院総合診療科・感染症内科
2）医療法人財団明理会新松戸中央総合病院看護部
3）医療法人財団明理会新松戸中央総合病院薬剤部
4）医療法人財団明理会新松戸中央総合病院糖尿病・内分泌代謝内科

O25-4　HIV 陽性者における末梢性制御性 T 細胞 (Treg) 測定の意義ーリアルワールドデータよりー

藤井輝久[1)]、中十奈苗[2)]、土石川佳世[2)]、山崎尚也[2)]

1）広島大学病院エイズ医療対策室
2）広島大学病院輸血部

O25-5　HIV 陽性血友病患者における筋質変化の部位特異性　CT 指標を用いた縦断比較研究

藤内宏典[1)]、原田裕子[1)]、遠藤知之[2,3)]、堀　弘明[1)]

1）北海道大学病院リハビリテーション部
2）北海道大学病院感染制御部
3）北海道大学病院 HIV 診療支援センター

■日時：11 月 22 日（日）　13:40 ～ 14:30

■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F　405 会議室）

口演 26（基礎・B）
病原性・病態

座長　鈴木陽一
（大阪医科薬科大学医学部 生物安全実験研究室）

武内寛明
（東京科学大学大学院医歯学総合研究科）

O26-1　HIV 感染者における細胞外小胞由来 miRNA と炎症関連因子との関連

豊田真子、Bago Mussa、Ndaki Kinuma、Jalloh Alhaji、上野貴将

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター

O26-2 Uncovering *Prevotella* Associated Temperate Phages in the Gut Virome of People With Controlled HIV

Lucky Ronald Runtuwene[1)]、木口悠也[2)]、石坂　彩[1,3)]、古賀道子[3,4)]、四柳　宏[3,5)]、山本浩之[1)]、水谷壮利[1)]

1）国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所エイズ研究センター
2）Department of Medicine, Stanford University, CA, USA
3）東京大学医科学研究所附属病院
4）東京大学新世代感染症センター
5）国立健康危機管理研究機構

O26-3 HIV-1 gp140 による腸管上皮バリア障害に対するビタミン D-VDR シグナルの保護的役割の検討

矢崎有希[1)]、福本　敦[1,2)]、木村佳貴[1,2)]、吉野友祐[1,2)]

1）帝京大学医学部微生物学講座
2）帝京大学アジア国際感染症制御研究所

O26-4 Insight into the molecular determinants of monkey BST-2 underlying susceptibility to SIV antagonism

Thi Ngoc Mai Chu[1,2)]、Yamamoto Hiroyuki[1,2)]、Yoshida Takeshi[1)]

1）AIDS Research Center, National Institute of Infectious Diseases, Japan Institute for Health Security
2）Joint Research Center for Human Retrovirus Infection, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University

O26-5 HIV-1 Env のウイルス粒子への取り込みに関与する Env 細胞内領域の機能解析

宮内浩典[1,2)]

1）国立研究開発法人理化学研究所　生命医科学研究センター
2）国立健康危機管理研究機構　国立感染症研究所　エイズ研究センター

■日時：11 月 22 日（日）　13:40 ～ 14:30

■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 27（社会・S）
MSM 政策医療体制

座長　日高庸晴
（宝塚大学看護学部）
四本美保子
（東京医科大学病院臨床検査医学科）

O27-1 クリニック間での HIV 患者受け入れに関する課題点について

迫田直樹[1)]、安岡紀登[1)]、中川あゆみ[1)]、矢倉裕輝[1,2)]、古林敬一[1)]、白阪琢磨[1,2)]

1）たによんスタートクリニック
2）国立病院機構大阪医療センター

O27-2 クリニックにおける MSM 向け HIV・性感染症検査キャンペーン（2025 年度実績報告）

阪野文哉[1)]、浜みなみ[1)]、川畑拓也[1)]、陰山朋久[2)]、町登志雄[2)]、寺内紗耶[3)]

1）地方独立行政法人　大阪健康安全基盤研究所
2）MASH 大阪
3）大阪府健康医療部保健医療室医療・感染症対策課

O27-3 東海地域における MSM を対象にした HIV/STI 検査行動の啓発普及方法の評価：2023 年度から 2026 年度の結果から

高久道子[1)]、金子典代[2)]、石田敏彦[3)]、藤浦裕二[3)]、塩野徳史[4)]

1）岐阜保健大学看護学部看護学科
2）名古屋市立大学大学院看護学研究科
3）ANGEL LIFE NAGOYA
4）大阪青山大学看護学部看護学科

O27-4 深夜の繁華街に来訪する若者の HIV/STI 感染リスク行動に関する研究

日高庸晴[1)]、土屋菜歩[2)]、白阪琢磨[3,4)]

1）宝塚大学看護学部
2）東北大学東北メディカル・メガバンク機構
3）国立病院機構大阪医療センター
4）公益財団法人エイズ予防財団

O27-5 A 病院における入院時 HIV 検査、10 年間の結果

村田　舞、坂部茂俊

伊勢赤十字病院

■日時：11 月 22 日（日） 14:30 ～ 15:40
■会場：第 4 会場（岡山コンベンションセンター 4F 405 会議室）

口演 28（基礎・B）
分子疫学・抗 HIV 薬

座長 菊地 正
（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所エイズ研究センター）

原田恵嘉
（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所）

O28-1 当センターの新規 HIV-1 診断例における PrEP 使用経験歴と治療前薬剤耐性変異の関連についての分子疫学的解析

林田庸総、潟永博之

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター

O28-2 末梢血中 HIV-1 プロウイルスゲノム近全長解析法の開発

松田昌和[1)]、山村喜美[1)]、重見 麗[1)]、大出裕高[1)]、横幕能行[1)]、今橋真弓[1,2)]

1）（独）国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター 感染・免疫研究部
2）名古屋大学大学院医学系研究科 免疫不全統御学講座

O28-3 国内 HIV-1 伝播クラスタ動向（SPHNCS 分析）年報－ 2025 年

椎野禎一郎[1)]、今橋真弓[2)]、南 留美[3)]、中村麻子[4)]、林田庸総[5)]、吉村和久[6)]、杉浦 亙[1)]、菊地 正[7)]

1）国立健康危機管理研究機構 臨床研究センター
2）国立病院機構名古屋医療センター
3）国立病院機構九州医療センター
4）福岡県保健環境研究所 保健科学部
5）国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター
6）大田区保健所
7）国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 エイズ研究センター

O28-4 コレセプター利用性の異なる HIV-1 による混合感染の次世代シークエンスを使用した縦断解析

前田洋助[1,2)]、近田貴敬[3)]、阿部 遙[4)]、寺沢広美[2)]、澤 智裕[2)]、Giang Van Tran[3,5)]、長谷部太[4)]

1）吉備国際大学看護学部看護学科
2）熊本大学生命科学研究部微生物学講座
3）ヒトレトロウイルス学共同研究センター
4）長崎大学熱帯医学研究所
5）National Hospital of Tropical Diseases, Hanoi, Vietnam

O28-5 HIV 侵入をターゲットとした抗体薬物複合体 (ADC)

松崎陸久[1)]、辻 耕平[1)]、桑田岳夫[2)]、三浦裕太郎[1)]、小早川拓也[1)]、松本佳穂[2)]、伊東祐二[3)]、吉矢 拓[4)]、松下修三[2)]、玉村啓和[1)]

1）東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所
2）熊本大学ヒトレトロウイルス学研究センター
3）鹿児島大学大学院理工学研究科
4）株式会社ペプチド研究所

O28-6 Capsid の polymorphisms が HIV-1 の lenacapavir 耐性獲得に与える影響

青木 学[1)]、Makene Twilumba[2)]、豊田真子[2)]、上野貴将[2)]

1）熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科
2）熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター 感染免疫学分野

O28-7 2025 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向

菊地 正[1)]、西澤雅子[1)]、林田庸総[1)]、潟永博之[1)]、遠藤知之[2)]、吉田 繁[3)]、伊藤俊広[4)]、古賀道子[5)]、浅倉弘幸[6)]、長島真美[6)]、貞升健志[6)]、佐野貴子[7)]、宇野俊介[8)]、谷口俊文[9)]、猪狩英俊[9)]、寒川 整[10)]、中島秀明[10)]、吉野友祐[11)]、茂呂 寛[12)]、渡邉珠代[13)]、今橋真弓[14)]、松田昌和[14)]、重見 麗[14)]、横幕能行[14)]、渡邊 大[15)]、阪野文哉[16)]、浜みなみ[16)]、川畑拓也[16)]、藤井輝久[17)]、高田清式[18)]、末盛浩一郎[18)]、中村麻子[19)]、南 留美[20)]、松下修三[21)]、仲村秀太[22)]、小島潮子[1)]、Lucky Runtuwene[1)]、椎野禎一郎[1)]、吉村和久[23]、杉浦 亙[1)]

1）国立健康危機管理研究機構
2）北海道大学
3）北海道医療大学
4）仙台医療センター
5）東京大学
6）東京都健康安全研究センター
7）神奈川県衛生研究所
8）慶應義塾大学
9）千葉大学
10）横浜市立大学
11）帝京大学
12）新潟大学
13）石川県立中央病院
14）名古屋医療センター
15）大阪医療センター
16）大阪健康安全基盤研究所
17）広島大学
18）愛媛大学
19）福岡県保健環境研究所
20）九州医療センター
21）熊本大学
22）琉球大学
23）大田区保健所

■日時：11 月 22 日（日） 14:30 ～ 15:20
■会場：第 6 会場（岡山県医師会館 4F 401 会議室）

口演 29（社会・S）
人権・倫理・U=U

座長　生島　嗣
（認定 NPO 法人ぷれいす東京）

座長　福岡里紗
（大阪大学大学院医学系研究科感染制御学）

O29-1　HIV 陽性者及び患者関連団体双方の視点における、U=U に対する信念、スティグマ、臨床的影響におけるギャップ

岩橋恒太[1)]、仲村秀太[2)]、Nneka Nwokolo[3)]、Brent Allan[4)]、Garry Brough[5)]、Mario Cascio[6)]、Erika Castellanos[7)]、Antonella Cingolani[8)]、Vuyiseka Dubula[9)]、W. David Hardy[10)]、Sindy Mbundwini[11)]、Marta McBritton[12)]、Mary Ndung'u[13)]、Annette Piecha[14)]、Bruce Richman[15)]、Ama Appiah[3)]、Mariel Mayer[3)]、Shaun Mellors[3)]、Rickesh Patel[3)]

1) 特定非営利活動法人 akta
2) 琉球大学大学院医学研究科　感染症・呼吸器・消化器内科学講座（第一内科）
3) ViiV Healthcare, London, UK
4) The National Association of People with HIV Australia, Newtown, Australia
5) Transformation Partners in Health and Care, London, UK
6) European AIDS Treatment Group (EATG), Brussels, Belgium
7) Global Action for Trans Equality (GATE), Mijdrecht, Netherlands
8) Fondazione Policlinico Universitario Agostino Gemelli IRCCS, Catholic University of the Sacred Heart, Rome, Italy
9) The Global Fund, Geneva, Switzerland
10) USC Rand Schrader HIV Clinic, Keck School of Medicine of USC, Los Angeles, CA, USA
11) Nelson Mandela University, Port Elizabeth, South Africa
12) Barong, Sao Paulo, Brazil
13) Women's Health in Women's Hands Community Centre, Toronto, Canada
14) Kompetenznetz HIV/AIDS e.V.
15) Prevention Access Campaign, New York, NY, USA

O29-2　ＨＩＶ陽性者に対する留置処遇の憲法的統制―特異被留置者指定と菊池事件の示す構造―

中野栄二[1,2,3)]

1) 中央大学
2) 特定非営利活動法人ぷれいす東京
3) 特定非営利活動法人 ASK（ASK 認定依存症予防教育アドバイザー）

O29-3　薬物を使用する HIV 陽性者への医療提供の連続性に関する実態調査―逮捕・勾留中・出所後を通じた切れ目のない支援に着目して―

生島　嗣[1)]、赤木寛隆[2)]、大木幸子[3)]、岡本　学[4)]、片山宗紀[5)]、村崎 美和[6)]、本間隆之[7)]、西川篤郎[1)]

1) NPO 法人ぷれいす東京
2) 法務省関東地方更生保護委員会
3) 杏林大学保健学部看護学科
4) 大阪医療センター
5) 北里大学医学部精神科学教室
6) 北里大学北里研究所病院
7) 株式会社マイ．ビジネスサービス

O29-4　People Living with HIV における HIV 関連スティグマの地域差に関する研究：多施設共同研究における初期解析

福岡里紗[1)]、松尾裕央[2)]、小野塚大介[2)]、忽那賢志[1,2)]

1) 大阪大学大学院医学系研究科感染制御学
2) 大阪大学医学部附属病院感染制御部

O29-5　HIV 陽性者における終活・将来の医療意思決定に関する意識と支援ニーズ：単施設横断的アンケート調査

今北菜津子、酒井勇紀、古西　満、笠原　敬

奈良県立医科大学　感染症内科学講座